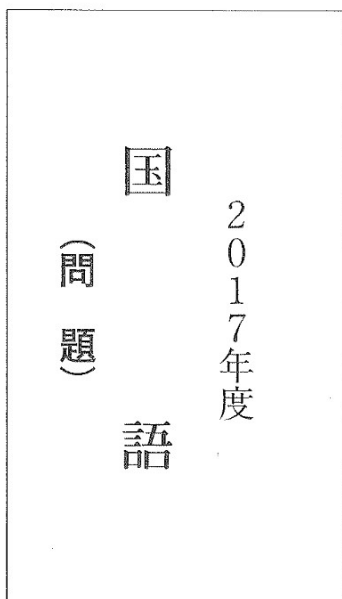




< H29112016 >

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
- (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
- (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例)

3	8	2	5	番
↓				
万	千	百	十	一
	3	8	2	5

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

— 1 —
次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

最初に検討したいのは、近年の文化から政治や経済に至る幅広い傾向として取り上げられる「ポスト物質主義 (post-materialism)」と呼ばれる潮流である。資本主義でも重厚長大産業が流行¹らなくなり、人を対象としたサービスに力点が移っていくことなどに表れる「モノから人へ」というような移行感覚が挙げられよう。

なお、マルクス主義での「唯物論」もまたマテリアリズムであり、これも廃れてしまった思考様式の代表例とされることが多い。ただしここで扱う「ポスト物質主義」は、マルクス主義的な「唯物論」の代替だけでなく、技術進歩や経済成長に対する疑念、さらには富や権力を追求める生き方とは異なる人生への志向なども意味する、より広い概念である。

この発端には一九六〇—七〇年代、ニューレフトのラディカリズムが主張したオルタナティブな生き方がある。この時期に左翼は労働運動から市民生活の多様な側面へと、活動の重心を移動させるようになった。フェミニズムやエコロジー、また少数者の文化をヨウゴ^aする多文化主義などの思想や運動も、このようなオルタナティブな思想を発端としてこの時期に一般化した。

その後の時代の変化とともに、「ポスト物質主義」にはさまざまな意味合いが付け加わってきた。産業構造が製造業主体からサービス中心に変わり、生産においても知識や情報の重要性が著しく高まってきた。消費の対象がモノの有用性からイメージ中心のものへと変化していくことが、消費社会論でしばしば指摘されてきた。もともと「ポスト物質主義」には体制批判的な意味合いがあったものが、資本主義の側がこうした傾向を新しいビジネスチャンスとして急速に取り込むようになった。現在では多くの企業が環境に優しいことを自ら主張するようになってきている。(イ)

こうした傾向は、最近の政治にも重要な影響を与えている。たとえば「コンクリートから人へ」といったスローガンに代表される民主党政権の政策には、「モノから人へ」という方向づけなど、ポスト物質主義的傾向がかなり表れていた。政権発足当初はそれが何か新しい政治の条件であるように受け止められた。(ロ)

政治における価値観の変容という文脈で「ポスト物質主義」の概念を定着させたのは、政治社会学者ロナルド・イングルハートの著書『静かなる革命』(一九七八)の功績である。イングルハートは六〇年代から七〇年代に至るニューレフトなどの社会運動を経たあとの西欧の政治社会における人々の意識を調査し、そこに価値観の変化が定着していることを見出している。

たとえばかつて多かった「富」や「権力」への志向に代わって、他者に承認されたい欲求やアイデンティティの欲求が上位に来ることが示されている。イングルハートはアブラハム・マズローの「欲求段階仮説」に依拠して、「安全」などに始まる物質的欲求が充足されると、「A」などの「ポスト物質主義」的価値へと人々の志向が移動すると説明した。このようなイングルハートの仮説は、六〇—七〇年代を境とした政治文化の変化の大局を把握するうえで、今も価値を失っていないと思われる。ただし、ここにはいくつかのリユウホ^bが必要である。(ハ)

ひとつには、七〇年代以来の先進資本主義国での景気の後退、および新自由主義的政策の導入による格差拡大によって、先進国ではいったんはほぼ解決済みだとされた貧困問題が回帰してきた。物質的な富の欲求が満たされなくなれば、「ポスト物質主義」的価値は後退するのだろうか。新自由主義的政策自体が、投資と消費を中心に人々を再び物質的欲求へと駆り立ててきたという面もある。また、人間生活の精神的な豊かさについてあれこれ言えるにしても、やはり経済がしっかりしてこそはじめてそうした豊かさが可能になるのだという議論には、一般的傾向の説明としては説得力があることも否定しがたい。(ニ)

しかし、それでも不可逆的にポスト物質主義的な志向が強まっているという面も否定できない。先に触れたような環境への関心もその一例であるし、またフェミニズムや多文化主義は世論ではしばしば評判が悪いが、そうなるのは十分ながらもそういう考え方が浸透し政策化された結果、快く思わない者もしぶしぶそれらを認めなければならなくなっただ、という状況によるものだともいえる。(ホ)

「ポスト物質主義」はニューレフトから新自由主義への文化変容において、このような両義的な位置にあり、「ポスト物質主義」対「物質主義への回帰」の抗争が現代の民主主義のいわば「文化的矛盾」を形作っているようにも見える。現在では、たとえば脱原発側と原発再稼働側との争いなどがその典型だともいえる。それは一面でそのとおりなのだが、しかし現状の対立をこのような二元論的対立にまとめることが正当かどうかには、私は疑いを持っている。ニューレフ

トの時代から現在に至るまで継承されてきた新しい政治文化を「ポスト物質主義」の名で呼ぶ一般的傾向が果たして望ましいかどうかについても、この概念自体に混乱があつて、この概念で示される内容を見誤らせているのではないかと考えられる。それゆえに、再検討の余地がある。

まず、六〇―七〇年代に始まる意識の変革を「モノから人へ」といった文脈で捉えることは、一種の **B** 化であり、この変化が消費資本主義に取り込まれた結果そうだったのではないか、という点である。たとえば素朴に考えても、エコロジーの思想は、人間がモノから解放されることを求めるのではなく、むしろその逆を指し示す考え方だと言える。すなわち、本来人間は、生態系システムの支配者ではなくその一員であり、エコシステムの中にある存在として人間や人間社会を把握し直そうという考え方である。そうであれば、 **C** 。

物質的な再生産という面では、フェミニズムもまた、出産や育児など、人間の再生産に注目することで、これまでの生産中心の産業主義的なものの見方をクツガエしてきた。³ ここでも人間が自らの外部にある物質的自然を加工し支配するような狭い関係を超えて、自らも出産や育児をとおして自然界の物質代謝のなかで生きている存在であることに目が向けられているとすることができよう。

このようにして、一九六〇―七〇年代以降の文化変容で目指されたのは人間が物質的なものから解放されるということとは逆に、むしろ人間が物質界、自然界に埋め込まれた存在であることを意識し、人間の自然に対する関係を、人間中心の意味での功利的な関係（開発、搾取）にとどまらないものへと開いていくことであつた。それはこれまでの狭い意味での「物質主義」とはたしかに異なるものだが、 **D** 。

「ポスト物質主義」という表現はもともと不適切だったのではないかと私は考えている。

こうした文化変容に、とくに八〇年代以来、消費資本主義的な文化変容が新たに付け加わることで、変容の意味自体が変容してくることになる。「地球にやさしい」といったことばに表現されるようなライフスタイルが流行となり、そのようなライフスタイルを提供するビジネスが成立したり、企業がエコであることを活動の正当化や企業イメージ向上に用いたりすることが一般的になって、消費資本主義のなかにエコロジーや女性中心の文化が取り込まれるようになった。ここに至って、エコロジーはしばしば物語として **E** される言説となり、物質的關係から独立して見えるイメージとして、文字通り「ポスト物質主義」のことばにふさわしくなった面がある。それと同時にこうしたイメージに支えられた環境ビジネスには、新しい成長産業として、資本主義を牽引^{けんいん}していく役割が期待されるといった、当初のエコロジー思想からは大きく異なる資本主義への取り込みが行なわれるようになった。

エコロジーを消費資本主義的に言説化することは、ある意味では必要なこともあるだろう。そうしなければエコロジーの世界的流行はなく、グローバルな政治や経済において影響力をもつことは困難だったであろうからである。しかし、エコを掲げる企業の言説と、企業が地球上でリアルにしていることとのあいだには、大きな開きがあることが多く、エコロジーが言説だけに解消されることはありえない。

注

（森政稔の文章による）

マテリアリズム：精神的なものも含めすべてのものが物質であるとする説。

ニユーレフト：高度資本主義が生み出した管理社会的状況に反発するとともに、既成左翼を批判して一九六〇年代に登場した左翼勢力の総称。

ラディカリズム：急進主義。現存制度を根本から変革しようとする考え、ないし行動方針。

オールタナティブ：既存のものに取ってかわる新しい選択肢。

新自由主義：政府の規制を緩和・撤廃して民間の自由な活力に任せ成長を促そうとする経済政策。

問一 傍線部 a、c の片仮名を、漢字（楷書）で解答欄に記せ。

問二 傍線部 1「ポスト物質主義 (post-materialism)」に当てはまらないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人間生活の精神的な豊かさを優先すること。
- ロ 技術的な進歩が経済成長をもたらすと考えること。
- ハ 環境に優しいといったイメージを前面に押し出していくこと。
- ニ フェミニズムや多文化主義などの考え方を広く浸透させていくこと。

問三 文中から次の一文が脱落している。次の文が入る場所として最も適切なのは、(イ) (ハ) (ホ) のうちどこか。一つ選び、解答欄にマークせよ。

景気後退の場面においては、「ポスト物質主義」は脆弱な立場に追いやられているともいえる。

問四 空欄 A に入る最も適切な語句を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 自覚 ロ 知識 ハ 情報 ニ 精神 ホ 承認

問五 傍線部2「両義的な位置」とはどのようなことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 新自由主義的な政策のもと、物質的な欲求へと回帰する面と環境・文化を重視する志向とが相まっていること。
ロ 現代の管理主義的な社会状況に反発しながらも、一方では資本主義から得られる果実は享受しようと望むこと。
ハ ニューレフトの目指す体制批判的な立場を維持しつつ、消費社会で求められる様々なサービスの提供を試みること。

ニ いわゆる物質主義的な、富や権力を追い求める生き方をカモフラージュするために、エコロジーや多文化主義を標榜すること。

問六 空欄 B に入る最も適切な語句を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 象徴 ロ 反動 ハ 矮小 ニ 拡大 ホ 曖昧

問七 空欄 C に入る最も適切な表現を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人間が自らの物質的な再生産の場面向かい合うことは当然である。
ロ 人間が消費資本主義を再生産しようと試みることは一種の逆行である。
ハ 人間が再生産されることで物質的自然と共存してきたことは一理ある。
ニ 人間が自己の精神的な再生産を目指して切磋琢磨することも理解できる。

問八 傍線部3「自然界の物質代謝のなかで生きている存在」という部分を言い換えた表現(十五字以上二十字以内)を、本文中から二つ抜き出し、それぞれ最初の五字を解答欄に記せ。(句読点も一字と数える。また解答の順序については問わない。)

問九 空欄 D に入れるのにふさわしい表現を自分で考え、自由という語を用いて十〜十五字で解答欄に記せ。

問十 空欄 E に入る最も適切な語句(漢字二字)を本文中から抜き出し、解答欄に記せ。

問十一 本文の内容と合致するものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ ポスト物質主義は、ニューレフトの時代から現在に至るまで不変の思想として継承され、それに消費資本主義的な文化変容が加わったことで、エコロジー思想として世界的に流行するようになった。
ロ ポスト物質主義は、時代の変化とともに様々な意味合いが付け加えられることになり、もともと体制批判的な意味合いであったものが、資本主義によって取り込まれ、新しいビジネスチャンスを生むことになった。
ハ ポスト物質主義は、新自由主義的政策の導入による格差拡大によって一旦後退したかに見えたが、現代の民主主義が抱える文化的矛盾を克服するための切り札として再検討が進み、資本主義を牽引する役割をも期待されるようになってきた。

ニ ポスト物質主義は、それまでの価値観の転換を余儀なくし、人間が自らの外部にある物質的自然を加工し支配するような関係から、自然に対して妥協することで「地球にやさしい」といったライフスタイルを目指す方向にシフトしてきたと考えられる。

次の文章は『賀茂保憲女集』という歌集の序文の一部である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

敷島の世中、わが帝の御親族、国の内の司、千々の門、過ぎにし年頃、ならへる月日の中に求むれど、我身のご悲しき人はなかりけり。年の積もるままに、物思ひしげりける時に、思ひけるやう、はかない鳥といへども、生まるるよしかひあるは、巢立つこと久しからず、はかない虫といへど、時につけて声をとなへ身を変へぬ^aなし。かかれば、鳥虫に劣り、木には及ぶべからず、草にだに等しからず、A 人には並ばず。ちはやぶる神代より、人をば賢しきものにしけるぞ。空を飛ぶ鳥といへども、水に遊ぶ魚といへども、針をまうけ糸をすげて、そのまなこを閉ちて、深き海といへど、木を窪め、楫をまうけて、おのづから渡りぬ。すべて数へば、浜の真砂も尽きぬべう、田子の浦波も数知りぬべうなし。かくさまざまなることを見れば、我身の悲しきこと、命は幸ひを定めたらぬ^b世なれば、さりととも若き頼みに頼みしことを、いま年の老いゆくまに、哀れなることを思へど、卑しきには友とする人もなし、拙きには雅びかなることなし。流れての世に、人に笑はれぬ^cべければ、なほ雁の涙に落とし果ててんと思ふものから、なほかき集めてけり。

この歌は、天の帝の御時に、¹疱瘡といふものおこりて、病みける中に、賀茂氏なる女、よろづの²人に劣れりけり。さる中にただ疱瘡をなむ、すぐれて病みける。瘡のみにあらず、多くの病をぞしけると、からうじてこのBよりなん鮮^{よみが}りける。そのほど冬の初め、秋の終りなりければ、草木も風もやうやう枯れもていく。見ん人ゆゆしく思ひぬべしとて、いささか色にも出ださず、ただ心一つに思ひて、我身のはかなきこと、世の中の常ないこと、眺むる夕べ、空にたまとる虫を詠み、ある時はあまたの魂を語りて、²歌合をして、勝ち負けは心ひとつに定めなどしてぞ、慰めて明かし暮しける。見る人はさこそ病高しぞらめ、常に呻^{うな}吟^{ぎん}ひ人なむこれを好むかはなどいへど、聞き入れず。わづかに^{すす}薄^{うす}、菊など植ゑて見んとしけるを、この病につきて知らぬ^dほどに、菊も枯れにけり。³ましてかかることをば思ひこめてや止みなんや。よろしからむと定むるに、なほ飽かねば、かかることをいかなる人しけん、心もなかりける人かなといはば、おほよその人の名立てなれば、吾がせるなり。題も知らする人もなし。ただ詠⁴まるる時を面白きにすれば、冬も桜心の内には乱る。夏の日にも心の内には雪かきくらし降りて、消えまがひなどすれば、定まることなくて、書き集むる手も定めたらず、端に書くべきことを奥に書き、奥に書くべきことは端に書き、⁵定まることなし。疱瘡の盛りに目をさへ病みければ、枕上に面白き紅葉を人の置いたりければ、思ひ余りてくもりつつ涙しぐるる我が目にもなほもみぢ葉はあかく見えけり。

注

疱瘡：天然痘。または麻疹。

問十二 傍線部 a、d の「ぬ」に、文法的に他と異なる「ぬ」があるが、それはどれか。最も適切なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

問十三 傍線部 1 「木には及ぶべからず」の主語として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

問十四 空欄 A に入る最も適切な語句を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

問十五 傍線部 ①、⑤の「人」に、他と異なる「人」を指す「人」があるが、それはどれか。最も適切なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

問十六 空欄 B に入る最も適切な語句を次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 時 口 病 八年 二人 ホ 歌

問十七 傍線部2「歌合」とは、どのような歌合か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 古来の歌人たちの歌を選んで作った歌合。

ロ 自分の歌をもとにして行なった歌合。

ハ 虫や螢を相手に行なった想像上の歌合。

ニ 心の通う周囲の人々と語らって行なった歌合。

ホ 紅葉を枕上に置いてくれた友と行なった歌合。

問十八 傍線部3「ましてかかることをば思ひこめてや止みなんや」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ

選び、解答欄にマークせよ。

イ まして歌を詠むことに心がとられて、詠むのを止められようか。

ロ ましてこのような言葉に強く影響されて、詠むのを止められようか。

ハ まして菊が枯れたことを思っ、悲しむのを止められようか。

ニ まして我が身がはかないと思ひ込んで、嘆くのを止められようか。

ホ まして世の無常をひたすら思っ、詠むのを止められようか。

問十九 傍線部4「るる」と文法的に同じものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 今はとてわかるる時は天の河わたらぬさきに袖ぞひちぬる

ロ くもりつつ涙しぐるる我が目にもなほもみぢ葉はあかく見えけり

ハ わすらるる時しなければあしたづの思ひみだれてねをのみぞなく

ニ 今はこじと思ふものから忘れつつまたる事のまたもやまぬか

ホ わすらるる身を宇治橋の中たえて人もかよはぬ年ぞへにける

問二十 傍線部5「定まることなし」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 歌集の歌が三十一文字に整わず、字もきちんとしていない。

ロ 歌集の歌の順序が混乱していて、きちんとした形になっていない。

ハ 歌集の歌が、公表する歌と秘めておく歌とが混ざった状態である。

ニ 病のために手が震えて書けず、歌集が確定した形になっていない。

ホ 歌を実際の季節にかまわず詠んでいるので、季節はずれの歌がある。

問二十一 本文の内容と合致するものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 作者は歌人であるが、身分の低い賀茂氏の女性が疱瘡をわずらって苦しんだので同情し、その身边を記す歌集を編纂した。

ロ 作者は疱瘡をわずらい、悲しみと苦しみを味わうが、歌人の友人達との交友を支えにして、歌を詠み合いながら日々を送った。

ハ 作者は帝に仕えていて、若い時には将来を期待したが、疱瘡にかかり、宮中から退き、年老いた今は希望を失ってしまった。

ニ 作者は疱瘡にかかり、そのほかにも多くの病気をわずらって、孤独な生活を送っており、想像の世界で和歌を一人詠み続けた。

ホ 作者は寂しい晩年を送っているが、知人である賀茂氏の女性が詠んだ「くもりつつ…」の歌の背景を知り、それを詳しく記した。

問二十二 次の漢文は本文中の二重傍線部「木を窪め、楫をまうけて」のもととなった、『易経』の文章である。この漢文を読んで、あとの問いに答えよ。(なお、訓点を省いた箇所がある)

剗^{ネリテ}木^ヲ為^シ舟^ト、刻^{ケリテ}木^ヲ為^ス楫^ト。舟楫之利、以濟不通。致遠^{シテキニテ}以利^ニ天下^ヲ。天下同^{ジクシテ}歸^ヲ而殊^{ニシテ}塗^ヲ、一^{ニシテ}致^ヲ而百^{ニスヲ}慮^ヲ。天下何思何慮。日往^{ケバチ}則月来^{タリ}、月往^{ケバチ}則日来^{タリ}、日月相推^{シテ}而明生焉。寒往^{ケバチ}則暑来^{タリ}、暑往^{ケバチ}則寒来^{タリ}、寒暑相推^{シテ}而歲成焉。

8

者屈也。来者信也。屈信相感^{ジテ}而利生焉。

(『易経』による)

(1) 傍線部6「舟楫之利、以濟不通。」の書き下し文として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 舟楫の利、以て通ぜざるを濟す。

ロ 舟楫もて利に之きて、以て通ぜざるを濟す。

ハ 舟楫の利、以て通ぜざるを濟ふ。

ニ 舟楫もて利に之きて、以て濟は通ぜず。

(2) 傍線部7「天下何思何慮。」について、その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 天道の感応は人とは関わりなく自然であるから。

ロ 冬の寒さが終われば夏の暑さがやってくるから。

ハ 事象のたどり着くところはみな同じであるから。

ニ 日・月が交代しながら天下を明るく照らすから。

(3) 空欄

8

に入る最も適切な漢字一字を、解答欄に記入せよ。

(以下 余白)